

国史跡盛岡城跡 —第 34 次調査—

時 期		年 代	概 要	
不 来 方 城 期	①	不来方城 1 期	14 世紀末頃～	丘陵の頂部から中腹にかけて城郭が築かれる。
	②	不来方城 2a 期	15 世紀末 ～16 世紀前半	丘陵裾部まで拡大される。後の本丸・二ノ丸・三ノ丸・腰曲輪の前身的曲輪が存在した
不来方城 2b 期		16 世紀後半	本丸付近の堀改修。 腰曲輪の嵩上げ。	
盛 岡 城 期	③	盛岡城 1 期	16 世紀終末 (慶長 3 年 : 1598) ～	不来方城を大改修。本丸, 二ノ丸, 城内主要虎口に石垣が築かれる (乱積)。石垣は, 角石に割石, 築石に野面石を用いた乱積。腰曲輪の法面は土手のままで木柵が廻る。
	④	盛岡城 2 期	17 世紀前葉 (元和 3 年 : 1617) ～	本丸, 二ノ丸石垣の改修 (本丸の拡張)。城の西側を除き, 腰曲輪・三ノ丸に石垣が構築 (乱積) される。石垣は築石に至るまで割石で乱積。建物に双鶴 (向鶴) 紋の瓦が葺かれる。寛永 13 年 (1636) 本丸の大半を焼失。
	⑤	盛岡城 3 期	17 世紀後葉 (寛文 8 年 : 1668) ～	腰曲輪西側・二ノ丸西側・榊山曲輪の石垣が構築される (布積)。本丸再建と腰曲輪などの主な櫓等に赤瓦が葺かれる。
	⑥	盛岡城 4 期	18 世紀前葉～中葉 (宝永元年 : 1704) ～	本丸西側, 二ノ丸北東部, 三ノ丸北側, 腰曲輪西側などの石垣積み直し (布積)。 腰曲輪南と二ノ丸東にハバキ石垣構築 (布積, 元文 5 年 : 1737～)。 腰曲輪窪地の縮小。
	⑦	盛岡城 5 期	18 世紀後葉 ～19 世紀中葉 (～明治 7 年 : 1874)	腰曲輪窪地の埋め立て。 腰曲輪南西隅櫓を廃止して吹上三社勧請。 城内排水設備の整備。 明治 7 年建物払い下げ, 取り壊し。

(史跡盛岡城跡保存管理計画書より抜粋, 一部加筆修正)

○調査成果のまとめ

- A 区 構築された時期 (2 期・4 期) が異なる石垣栗石や盛土の境目が確認されました。また, 盛岡城 1 期以前の盛土層も発見されています。
- B 区 2 期石垣の天端石や栗石の幅, 裏込めの状況などが確認されました。
- C 区 『明和三年書上盛岡城図』に描かれている三ノ丸北西斜面の石垣の一部が発見されました。
- D 区 2 期石垣根石の深さ (地表面下約 2 m) や根固めの状態 (基礎工法) が確認されました。

※乱積・・・石と石を不規則に積む方法
 ※布積・・・一段ごとに横目地が通る積み方
 ※野面石・・・加工されず自然面を残した石

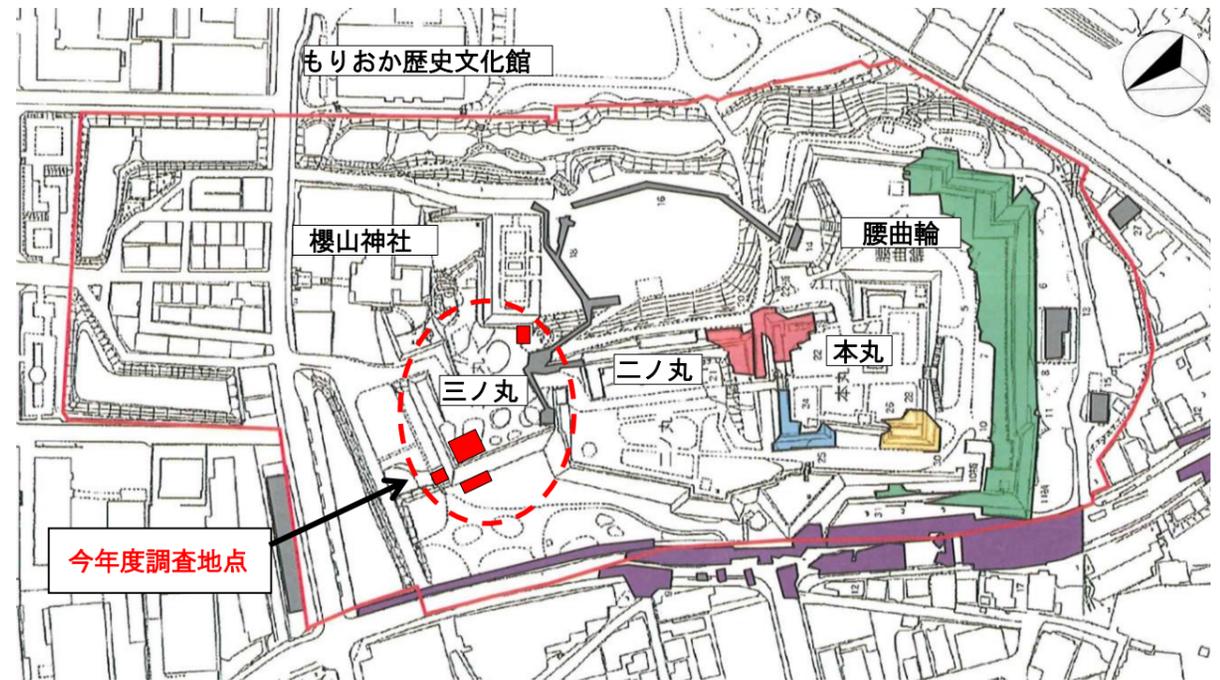
○盛岡城について

盛岡城は, 旧北上川と中津川の合流点の丘陵地を利用して築かれた平山城です。初代盛岡藩主南部信直が慶長 3 年 (1598), 豊臣秀吉から築城普請の許可を得て, 築城工事が進められました。おおよその完成を見た寛永 10 年 (1633) に 3 代藩主南部重直が入城して以来, 南部氏 20 万石の居城となりました。

明治維新後, 盛岡城は陸軍省の所管となり, 城内建物の保存も検討されましたが, 荒廃が進み維持が困難なことから, 明治 7 年 (1874) にそのほとんどは取り壊されてしまいました。その後, 公園整備の計画が進められ明治 39 年 (1906) に「岩手公園」として開園しました。また, 往時を偲ばせる雄大な石垣が良好に残されていたことから, 昭和 12 年 (1937) に国指定史跡となりました。

○発掘調査について

築城以来, 400 年近く風雪に耐えた石垣ですが, 近年傷みが目立ちはじめ, 崩落の恐れも心配される箇所も出てきました。そこで盛岡市は, 昭和 59 年度から崩落の恐れのある一部石垣の解体修復 (積み直し) を行い, それに伴う発掘調査を実施してきました。これまでの調査で, 築城当初の石垣 (盛岡城 1 期) や不来方城時代の土塁や堀などが確認され, 石垣の変遷や構築方法なども徐々に明らかになりつつあります。



第 1 図 盛岡城跡全体図および発掘調査実施箇所

○ 第34次調査について(11月29日現在)

調査原因 三ノ丸石垣解体修復に伴う事前調査
調査期間 平成26年10月1日～平成26年12月上旬(予定)
調査面積 約260㎡

確認した遺構

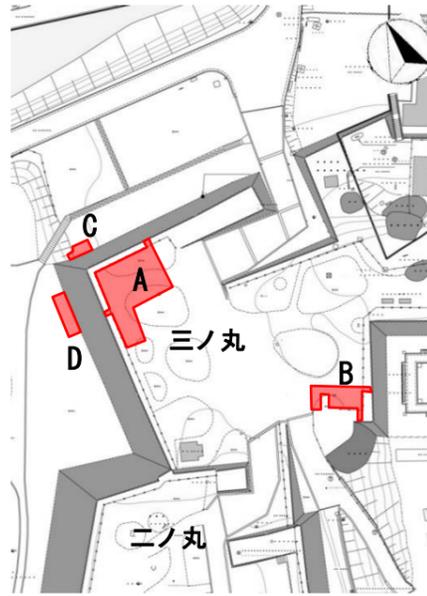
- A区 石垣天端石・栗石(盛岡城2期と4期)
盛土(盛岡城1期以前, 2期, 4期)
- B区 石垣天端石・栗石・盛土(盛岡城2期)
- C区 石垣根石・根石据方(盛岡城2期)
北西斜面部石垣および栗石(盛岡城2期以降)
- D区 石垣根石(盛岡城2期)

出土遺物 藩政期の軒丸瓦(双鶴文), 軒平瓦(菖文)
丸瓦・平瓦の破片

調査の概要

盛岡市では平成24年度に策定した「史跡盛岡城跡整備基本計画」に基づき、石垣の解体修復工事を順次行う予定です。今年度は、三ノ丸北西および南東部の石垣解体修復工事のための事前調査を4箇所行いました。

三ノ丸北面の石垣には宝永2年(1705)に積み直された際の銘石が残されていますが、三ノ丸北西(A区)の調査では宝永2年の石垣(盛岡城4期)の栗石と盛土層、当初の石垣(盛岡城2期)に伴う盛土層を確認しました。また、2期盛土の内側に1期以前と考えられる盛土も確認しています。石垣下部の調査では、根石の深さや根固めの状態などを確認しています。



第2図 調査区位置図

○ 新たに発見された石垣について

『明和三年書上盛岡城図(1766)』には、現在の三ノ丸北西下の斜面に石垣の表現が描かれています(第4図)。今回の調査で新たに確認された石垣は、その斜面に築かれた石垣の一部であると考えられます。また、明治39年(1906)の岩手公園開園直後に作成された『岩手公園全図』の三ノ丸北西下斜面部分を見てみると、石垣の表現ではなく土手として表現されています(第5図)。つまり、この石垣は城内の建物が撤去された明治7年から、公園開園までの約30年の間に石垣上部が解体され、残された部分も地中に埋められてしまったものと推測されます。

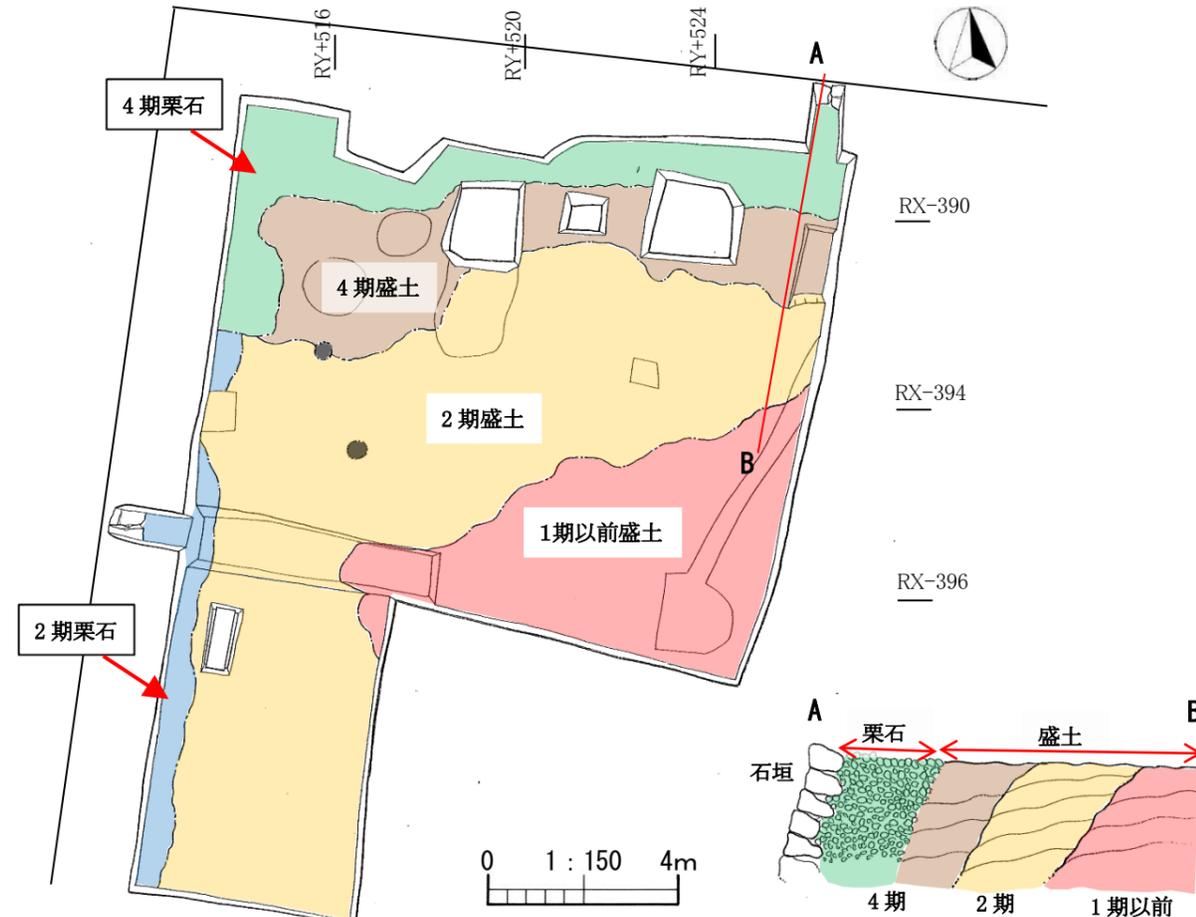
今回の調査では根石を含め3段の石垣が確認されましたが、南側に接する三ノ丸北面石垣の根石との位置関係から推測すると、本来であればさらに上部に4～5段の石垣が積まれていた可能性があります。



今回確認された石垣(右の石垣は三ノ丸北面石垣)

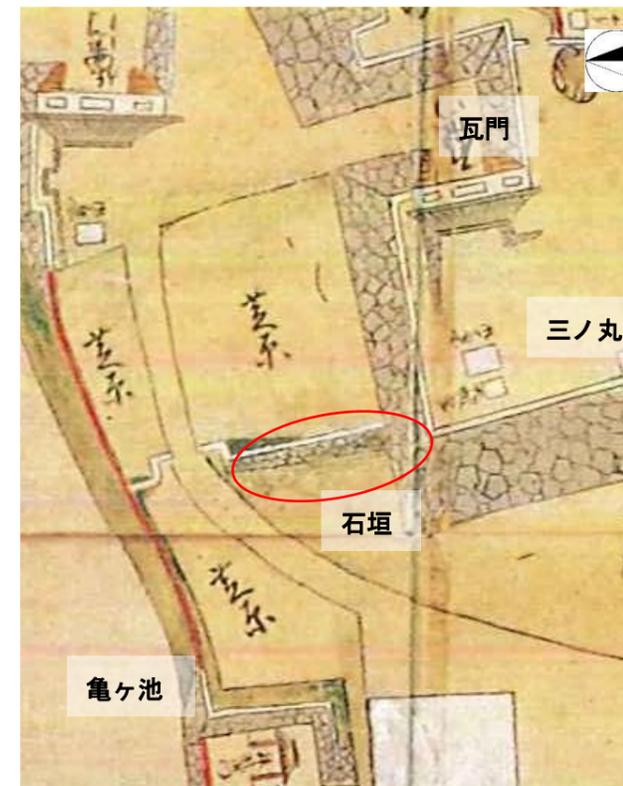


今回確認された石垣の栗石

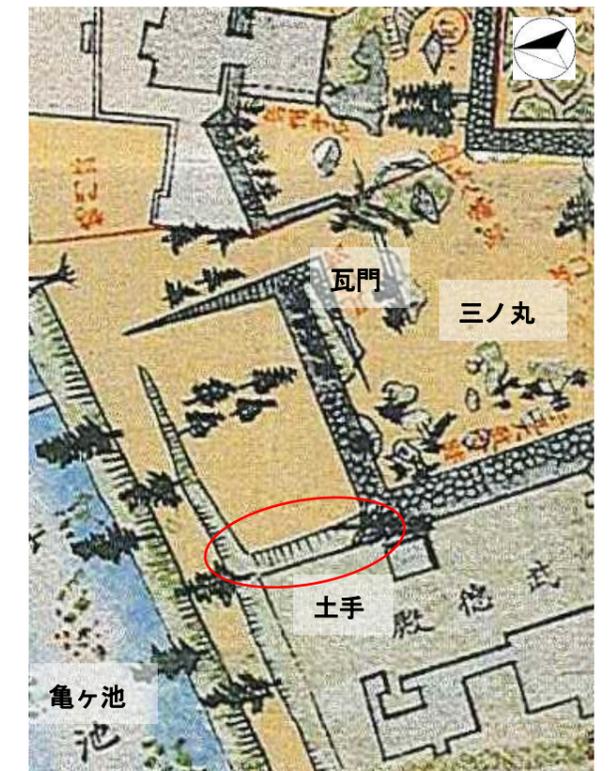


第3図 盛岡城跡第34次調査A区全体図

石垣断面模式図



第4図 明和三年書上盛岡城図(抜粋)



第5図 岩手公園全図(抜粋)